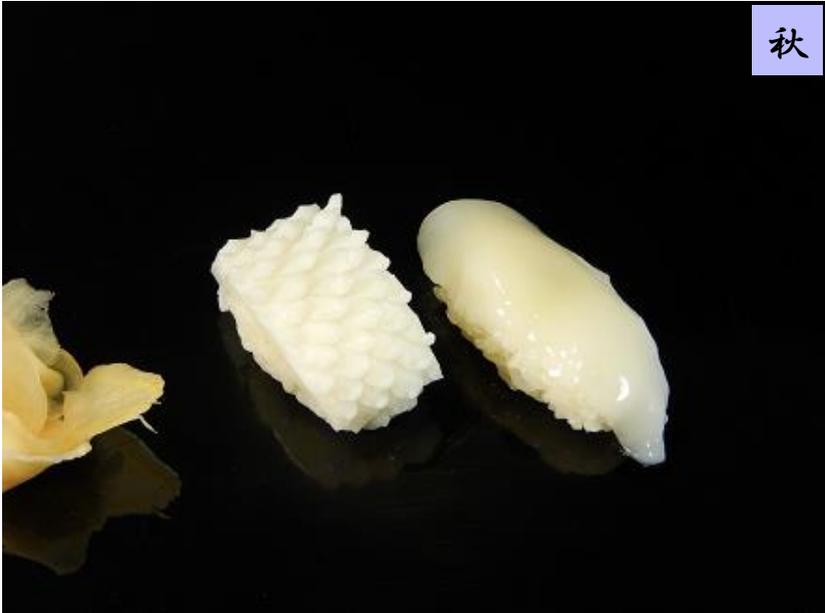


73. アオリイカ 障泥烏賊(あおりいか・くちいか・くろみいか)

秋



◇撮影後のコメント◇

写真左は胴の湯霜、右はエンペラの生、胴は生にすると歯応えあり過ぎ、鯨ネタとして不適と感じた。刺身用の細切りや隠し包丁の手技もないこともないが、一度に口に運ぶ量はその2~3本程度であろう。そこで湯霜とした。松笠切りも噛み易さを補う理由から。胴の肉厚が噛み辛い主たる要因。エンペラは薄いからそのまま生とした。

長年、陸からそれを狙っていたが、その努力虚しく釣果は皆無であった。しかし、近年漸く釣れた。その要因は①近年そのブームであり、それに乗ったことが幸いした。何が幸いかと言うと、場所が良かったのである。大勢の釣人がいる所に空きを見つけて竿を出したのである。63. イサキの項で述べた「追い出された漁港」の隣の漁港であった。何が幸いするのか分らない。②時合が良かった。夕まづめであった。元々イダコ釣の予定であったが、予定を変更して先にアオリイカを狙い結果が出た。その後、イダコとしたがその釣果は0であった。急遽の予定変更が幸いした。何が幸いするのか分らない。③それが湧いているとの情報が多数あった。アオリに煽られたのである。駆除しようと思って行ったのが幸いした。何が幸いするのか分らない。ネタの話。湯引き(加熱・レア)が大変好い。甘さが際立ち、固さが和らぐ。ゲソやエンペラも可能な限り出していきたい。